

元、元首会議設立委員会

コンビナー（召集者）

福田 G.C. 会長 挨拶（案）

三月七日 於ウィーン

ホフブルグ王宮

一、挨拶

御列席の皆さん、

本日、元、元首会議の設立委員会を開催するにあたり御挨拶申し上げることが出来ますことは私の光栄とするところであります。

夫々の国で、国政最高の責任を担って来られた世界的指導者の皆様方には、何かと、御多用の折にも拘らず、又この大変寒い時期に、遙々ウィーンにまで御光臨頂きまして誠に光栄に存じます。茲に衷心より深い感謝の意を表する次第であります。

なお、この設立委員会の開催を快くお引受け下さった、クライスキー首相並びにオース

トリヤ政府の各位に対し深甚なる謝意と敬意を表したいと思ひます。

更に、前国連事務総長であられたワルトハイム博士に於かれましては、本構想の最初の段階から、特別な御配慮を頂き、今日当地に於て、この会議を開催することになりました。その御配慮に対して謝意を表します。

また「人口と開発」に関するグローバル・コミッテイの創設に尽力され、さらにこの設立委員会の開催に関して終始情熱をもって支援し強力に推進して下さった国連開発機構事務局長（UNDPのADMINISTRATOR）ブラッドフォード・モース氏に対し、茲に改めて心からの感謝の辞を申し述べたいと思ひます。

皆さん、

当面の世界情勢について、私は大変憂慮しています。一つは政治的側面からであり、もう一つは経済的側面からであります。

申し上げるまでもなく、世界政治は戦後東西構造といふ図式で動いて参りました。今日もそれには変りはないのであります。ただ、その同じ図式の中味には時代により変化があります。東西緊張の高潮の時期もあれば、緩和の時期もありました。そして今日は残念ながら緊張の時期と申すべきでしょう。一九七〇年代半ば以降のエチオピア、アンゴラなどア

フリカ各地で、又南イエーメンやアフガニスタンなど中東各地で、さらにはカンボジャなどアジア各地での憂ふべき事態はこのような東西関係緊張の中の吹出物とも見るべきでしょう。

東西関係の中で最近最も象徴的な動きは、東西間での競争的軍備の拡大であります。軍備を互に競争的に拡大する結果、その終末点がどこに落ちつくことになるでありませんか、まことに不気味であります。

世界平和はこのように政治面の不安に脅されていますが、更に深刻な問題は世界経済の動向です。

世界経済の立役者であるアメリカはインフレ抑制に成功したものの、その反面、金利は下げ悩み、経済は沈滞し、失業者は一二〇〇万人、その率一〇・五%といふ異常の状態にあります。ヨーロッパの国々は、アメリカよりさらに悪く、殆んどどの国が、戦後最悪の事態に当面しています。

最も注意すべきは発展途上国の状態です。石油ショック以降、これらの国の多くはインフレと不況に悩まされ、加えて、国際収支は窮迫し、債務は急増して、その累積額は実に六〇〇〇億ドルを超え、今や、国際金融面で警戒水準を超える国が続出しようとしています。

す。

正に今日の世界経済は同時不況そのものであります。この状態を一九三〇年代、つまり第二次世界大戦直前の様相になぞらえる者がありますが、私もそのように思います。

一九二九年、アメリカの恐慌に端を発した不況は全世界に波及しました。この事態に対処し、不況からの脱出を図るためには、世界各国の協力協調以外に途はなかったように思います。だが、国々はその協力と協調の途を撰ばず、逆に保護主義・ナショナリズムをもつてしたのです。そのため不況はさらに深刻となり、国々には社会不安が醸し出されたのです。この深刻な不況と社会不安からの脱出のあえぎが遂に世界大戦へと展開したのであります。

この不幸な歴史は繰り返してはなりません。一九三〇年代の過ちは断じて繰り返してはならないと信じます。

個々の国でも、世界全体としても、長期にわたる経済不安こそは平和の敵であります。経済不安の中から何が起って来るか、それはやがて社会不安となり、遂には政治的悲劇につながって行くこと必至と思えます。

以上、私は今日の世界情勢についての私の見解を簡単に申し上げましたが、このような

政治面や経済面の不安が、相絡み、相もつれ合ふとき、不測の事態が更に不測の事態を招き、遂には世界的大混乱に発展する恐れなしとせず、このことが、当面の世界情勢について、私の最も懸念するところであります。

かくて、今日、世界政治の最大の課題は当面する世界を覆ふ政治的経済的不安を克服し、以て世界平和を護り抜くこと、この一点にあると思います。

皆さん、

われわれは当面の事態を乗り越えなければなりません。然し、われわれが、今日のこの事態を無事に乗り越えたとしても、われわれの将来が永きに亘って平和で豊かであるといふ保証はないのです。われわれはわれわれの前途に横たわる別の次元の大きな障害を克服しなければならぬのです。その障害は、われわれが、人類はじまって以来はじめて経験する、しかも、対処し難い厄介なものです。それは当面する世界情勢よりも、もっと根の深い宿命的、構造的なものであります。

人類はこの地球に住みついて以来、われわれの生存に必要な資源環境は無限であり無尽蔵であり、それらに不安が生じるといふようなことは夢にも考えることなく暮して今日に至りました。

それが、どうでしょう。戦後打ちつゞく世界平和（局地的には戦乱もあったが）——その平和と科学技術の進歩に支えられた経済の繁栄——この経済繁栄に支えられた先進諸国を中心とする大量消費社会の出現——その結果、地球上の貴重な資源は喰い荒され、自然環境は破壊されています。迫り来った新しい世紀を展望するとき、われわれの生存に必要な資源のかかなりの部分が、この地球から消え去るであらうし、又われわれ生存のための自然環境は一段と悪化するでしょう。われわれ人類の生存のための資源や環境は実は無限でなく、有限であるとの冷厳な現実の前に立たされることになるのであります。正に資源環境有限時代の到来です。人類は重大な転機、深刻な変化の時代を迎えようとしています。われわれはこの変化の時代への対応を慎重且つ大胆に進めなければなりません。この対応を複雑にし、且つ困難にしている問題があります。それは資源環境の使い手である世界人口の急増であります。

一八三〇年に十億人だった世界人口は、一九三〇年の二十億人になるまで百年を要しました。ところが、それが、それから、一九六〇年までの三十年間に三十億人となり、今日、四十四億人へと急増しました。さらに、今世紀末を展望すると六十二億人に達すであらうと予測されています。

資源環境有限時代のこの地球が、果してこの急増する人口の重荷に応じ得るでありましょうか。かくて「人口と開発」の課題が、この激動とも申すべき変化の時代への対応の軸として取り上げられなければならないのであります。

皆さん、

以上私は、当面する世界政治経済の危機と、二十一世紀への対応の問題点について、私見の一端を披露しました。固より今日のこの場合は、それらへの対応の具体策を論ずる場ではありませんから、これ以上深入りすることを避けませんが、唯一点、今日世界政治の最大の課題は危機に頻した世界平和を如何にして護り抜くかにあり、世界政治の責任は極めて重大であることを指摘し強調したのであります。

皆さん、

このような状勢を前にして、世界指導者達はその持ち場、立ち場に立って、世界平和のため懸命の努力をしていること、思います。先進七ヶ国首脳会議然り、南北サミット然り、国連各機関然り、個別的軍縮協議然り、等々。

然しながら、この重大な時期に臨み、嘗て夫々の国の最高指導者として内外の政治運営に幅広い経験と見識を有する者が、相集って協議することは、世界平和のため大きな貢献

となることゝ信じます。元、元首会議が提唱されるに至った所以であります。

この構想は人口と開発に関するグローバル・コミッテイと国連開発機構の協力によって進められました。今後も本構想はこの両機関の協力の下に進められるでしょう。この機会に両機関の各位に深甚の謝意を表します。

何卒よろしく御協議下されるようお願いいたします。